

2024年4月7日 主日礼拝 復活節 第2主日 聖餐礼拝

説教題：「心の目を開いて」 聖書箇所：ルカによる福音書24章36-53節（161頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讃美歌93 - 1 - 42 交読詩編：第68編1 - 11節（71頁）

讃美歌：83/561（平和を求めて）/326（地よ、声たかく）/81（主の食卓を囲み）/27

「今週の聖句」〔そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。

「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』

（ルカ伝24：45-46）

「牧師室の窓」「新しき 扉を開く この四月 まだ見ぬ日々も 主ともにいます」

「復活の 主よりいただく 心の目 開きて見ゆる 日々のうれしさ」

(1)皆様おはようございます。本日は復活節第2主日です。私たちは先週の日曜日に主の復活を記念しての復活日礼拝(イースター礼拝)を行なうことができました。先週お話し申し上げました様にイースターの日程は太陰暦を使って算出していますので、私たちが使っているカレンダーの日取りとは最大で1ヵ月プラス数日間のずれが生じる変動日であります。そういう意味では、毎年、イースターが3月になるのか4月になるのかは楽しみであります。何故ならば、3月4月はこの日本の社会では、年度替わりの時期、或いは、桜の咲く季節であるからです。また、仏教的な暦ではありますが、春のお彼岸のお墓参りの時期でもあります。復活日・イースターとお彼岸、いずれも生きる、生命を尊重する、確認すると言うことで繋がっていますね。

(2)今日の聖書箇所は36節から始まります。〔(24:36)こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。/(24:37)彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。〕何が起きたのでしょうか。イエス様が復活されたことはこの場にいるシモン・ペテロとエマオ村に行った二人の弟子から既に聞いてはいたのですが、人間は誰でも話として聞いただけでは信じられないのです。併し、目の前に復活されたイエス様をこの目で見ても、イエス様は死んでしまわれたという事実が頭の中で確定してしまっている以上、そのことと異なることが起きると受け入れることができないのです。一言で言えば、「そんなはずはない」と否定せざるを得ないのです。私は信徒時代の職業人時代に、少なくない人々が自分たちにとって予想外のことが起きると、「そんなはずはない」と否定する人々を見てきました。はっきり言えば、この世の中には、事実を事実として受け入れることができる人は必ずしも多くはありません。

38節には〔(24:38)そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。〕と書かれています。客観的に見れば、イエス様の方が戸惑っておられるように思えます。従って、イエス様は何とかして弟子たちが理解できるようにと工夫されるのです。

〔(24:39)わたしの手や足を見なさい。…触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。〕まるで漫才の掛け合いみたいではありませんか。それでもまだ信じられない弟子たちに「焼いた魚を」「彼らの前で食べられた」とまで書かれています。イエス様が弟子たちを何としてでも理解してもらおうと、懸命に工夫されようとしているお姿がユーモラスに記されています。イエス様でさえも弟子たちを説得するためには工夫されたのです。私たちが身の回りの人々に理解してもらうために、様々な工夫を、知恵を絞るのは当然なのです。途中で諦めてはなりません。…ところで、何故「焼いた魚」を弟子たちはイエス様に出したのでしょうか。たまたまそこにあったからでしょうか。魚は貴重なたんぱく源であるからでしょうか。

(3) 私は大学生の4年間の1年間は、夕ご飯なしの下宿生活をしました。夕食は町なかの食堂で「ハレルヤ」と言う名前の横一列で10人も座れば窮屈なごく小さい食堂で夕食を食べました。毎晩の夕食を支払うだけの余裕がなく一日おきてした。定食が90円、もう一品付けると110円です。この20円の差を超えることが出来ずに日々を過ごしました。食べ物への思いは悲しいです。私は空腹を忘れるために図書館で本に噛り付いていました。ハレルヤのご亭主とおかみさんが何をどう思ったのか分かりませんが、魚の骨だけを油で揚げて私に、食べないか、とくれるのです。当時の私は「ハレルヤ」の意味を全く知りませんでした。…もう一つの話をつけ加えますと、今から約10数年前、神学校在籍中に、ごく短期の留学制度でフィリピンのネグロス島にあるシリマン大学大学院神学校に行きました。ある漁村の実態把握のため村長のお宅に宿泊しました。カトリック・クリスチャンの家族の家でした。十字架とお花と亡くなられた家族の写真が飾ってある、謂わば仏壇のような祭壇があり、信仰を大切にされておられることがよく分かりました。私たちの為に夕ご飯に焼いた魚を出してくれました。美味しかったです。併し、漁村の村長の家族にとっても焼いた魚はご馳走なのです。私たちの仲間が残した魚も、村長の家族は捨てることはありませんでした。…日本の社会では、食べ物に敬意を払われることが少ない様に思われます。

聖書の中で食べ物はどの様に位置づけられているのでしょうか。サムエル記でもルツ記でもルカ福音書でも、食べ物の扱われ方を理解することは、聖書をより深く理解することになると私は思っています。…私事ですが、私の家に来た孫たちが来て一緒に食事をする時には、肘をテーブルについたり、椅子の背もたれに肘を回したり、足を組んで食べることはアウトになっています。孫たちも成長した時に、或いは重要な面談がある時に、食べ物の食べ方ひとつで、その人の人生が決定されてしまうことがあるのです。このことは学校での、学力の点数よりもはるかに重要です。

(4) 44節は、ルカ福音書全体を一言で言えば何であるのかを示している箇所です。何と書かれているのでしょうか。〔(24:44)イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、〕

言っておいたことである。」〕このことは44節の後に、46節・47節に続いています。〔(24:46) …言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。/(24:47)また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。…〕つまり、44節はイエス・キリストが生きておられた時の「イエスの時代」を表しています。一方、46&47節はイエスが天に昇られた後の「教会の時代」を表しています。従って、ルカによる福音書が何故書かれたのかをルカ伝第1章が述べているその理由を、ルカ伝の最終章である第24章で明確にして幕を閉じようとしている様に書かれています。では、何故45節には「イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」書かれているのでしょうか。ここには「心の目を開いて」と記されていますが、ギリシア語の原文には「目」（お目め）と言う文字はありません。新共同訳聖書の翻訳者が気を利かせて付け加えたものと思われます。何故ならば、16節の「二人の目は遮られて」と、31節の「二人に目が開け」に対応する文章の位置づけとなっていると翻訳者はサービス精神を発揮したプレゼントと推測されます。でも、でも「心を開いて」と言う言葉よりも「心の目を開いて」と言う方が読み手である私たちには遥かに深く理解できる、心に迫ってくる様に私には思われます。これは好みの違いですから、皆様はどの様に感じられますでしょうか。

(5)続けます。48節には〔(24:48)あなたがたはこれらのことの証人となる。〕と書かれています。よくよくお読みください。ここには何の条件もなく「証人となる」のです。「条件」とは法律用語です。詳しくは別の機会に申し上げます。但し、完全に無条件かと言いますと、ただ一つの条件があると私は思っています。それは、聖餐の（聖餐式の）パンとぶどう酒（当教会ではぶどうジュース）をいただく恵みの機会を大切にしていることではないかと思います。

50節には「ベタニアの辺りまで連れて行き」と書かれています。ベタニアとはヨハネ伝1章に書かれているように、「ヨルダン川の向こう側」、イエス様がヨハネから洗礼を受けた場所でありま
す。それとは別に、エルサレムの郊外にある場所でラザロ・マルタ・マリアの兄弟姉妹の住む村
であり、徴税人ザアカイに対してイエス様が「(19:9)今日(きょう)、救いがこの家を訪れた」と言
われた場所でもあります。皆様にとっての「ベタニア」とは何処でしょうか。皆様の心の中に「私
のベタニア」をお持ちになっては如何でしょうか。そこは、「心の目を開いて」置くことが出来
る場所であろうと思います。…最後に一言加えますと、南板橋教会の2024年度の「教会聖句／あ
なたがたに平和があるように」は今日の聖書箇所36節が出典となっています。「イエス御自身
が彼らの真ん中に立ち、あなたがたに平和があるように」と言われた」のです。「真ん中に」
とは、一人ひとりの顔が見える位置であり、安心感が与えられる位置です。この1年間、皆様に馴
染んでいただきますように。・・・お祈りいたします。